



カメ・アイガモ・アヒル

秋

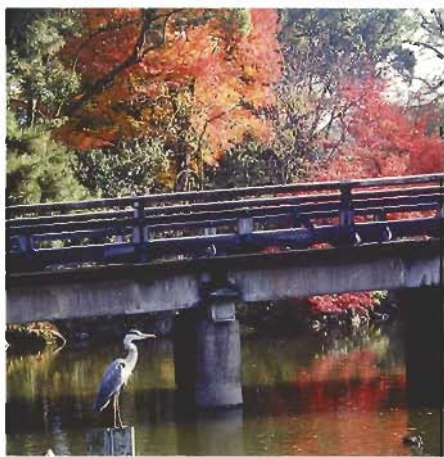
拾翠亭と九条池

みなさんいらっしゃい

前田 稔

京都御苑の南西角にほど近いところ、丸太町通に隣接した九条池に面して、九条家の遺構「拾翠亭」がたまたま残っています。この号ではこの拾翠亭と九条池をとりあげます。学術的、専門的な解説は他にゆずることとし、ここでは、人の公園利用者としての視点から拾翠亭と九条池の魅力を紹介しましょう。

拾翠亭（しゅうすい）は五摂家（摂政関白に任ぜられるべき家柄、近衛・九条・二条・一条・鷹司の総称）の一つであった九条家の茶室別邸で、主として茶会や歌会の社交の場として使用されました。今から、百年程前の江戸時代後期に建てられたといわれています。九条家の建物のほとんどは、明治の初め

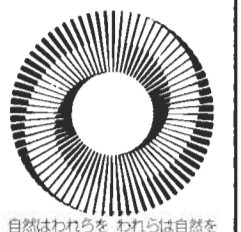


紅葉の九条池とアオサギ

に取り壊されましたが、四十坪あまりの拾翠亭だけが今に残されました。様式は数寄屋風の書院造りで、簡素な中にも貴族的で優美な外観を呈しています。

邸の前方に広がる池は、その形から勾玉池と称され、現在は九条池とも呼ばれています。かつては池の東側の木立は現在のように繁っておらず、邸からは東山が望め、東山の山なみを借景として取り入れていたとされています。

「拾翠」には緑の草花を拾い集めるという意味が込められており、平安時代の貴族たちが草花を摘んで楽しんで慣わしに因んで名付けられたとされています。また、「翠」という字でコバルトブルーの空飛ぶ宝石といわれるカワセミ（翡翠）にかけたともいわれています。カワセミは今も時々姿を見せて私たちの眼を楽し



自然はわれらを われらは自然を

絶えまない人と自然の連携を象徴するメビウスの連環。これが息の長い活動が期待される自然保護のシンボルマークに表現されています。

発行人
〒602-0881 京都市上京区
京都御苑3番地
☎075-211-6364
財団法人 国民公園協会
京都御苑 本村博司
編集
頼白川 寿院
監修
環境省京都御苑管理事務所
本紙は100%再生紙を使用しています。

自然保護憲章

自然をとうとび、自然を愛し、自然に親しもう。
自然に学び、自然の調和をそこなわぬようにしよう。
美しい自然、大切な自然を永く子孫に伝えよう。



拾翠亭は明治、大正期にも何度か改修が行われ、また近年では昭和五十九年頃にも茶室等の修繕が行われました。しかしその後、建物全体の樓閣部についても老朽化が進んでいることがわかり、そこで環境省（当時は環境庁）京都御苑管理事務所では、平成十一年九月に拾翠亭全体の全面改修工事に踏み切り、十三年七月に改修を終了しました。「平成の大改修」です。総工費一億四千九百万、伝統技術と先端技術を駆使した保存修理工事が完了しました。極力現（原）状を改変しないよう心がけ、構造上、機能上や

むを得ない部分のみ、部材取り替えが行われました。また、やむを得ず部材取り替えを行った部分は、古色塗りの等の処理を行い、新旧の違和感が生じないように細心の注意が払われました。改修前は危険防止のため二階部分は公開されていませんでしたが、改修後は二階部分も合わせて参観、利用ができるようになりました。

拾翠亭の参観日は三月一日から十二月二十七日までの毎週金・土曜日と葵祭、時代祭、春秋の京都御所一般公開日です。また、参観日と年末年始を除く毎日貸切利用に提供されています。茶会、句会、謡曲の会など、由緒ある拾翠亭に相応しい催しもが主たるものですが、茶話会や読書会のような集まりでも

利用できる方々に利用していただけるようにしています。ただし、亭内は禁酒・禁煙で、また営業行為に類するようないくつかの拾翠亭に相応しくない利用はお断りしています。

拾翠亭の広間や広縁から前方に広がる九条池に眼をやると、様々な四季折々の自然の動きやそれらと一体となった歴史的建造物を見とることが出来ます。

夏の九条池周辺ではサルスベリ（百日紅）が花の少ない時期に鮮やかな彩りを添えています。原産地は中国ですが、花期が長く七月中旬から九月中旬まで楽しめます。御苑内には数多く植えられています。厳島神社は九条家の鎮守社で、九条池の島の島に祀られているの池の弁天さんの名で知られています。中の島の先端は人の立ち入りが禁止されており、アイガモ（ハ鴨・間鴨）と白いアヒルのペアの格好の休憩場所になっています。このペアは年中九条池に居ついていますが本当に仲がよ

きただけ多くの方々に利用していただけるようにしています。ただし、亭内は禁酒・禁煙で、また営業行為に類するようないくつかの拾翠亭に相応しくない利用はお断りしています。

拾翠亭の広間や広縁から前方に広がる九条池に眼をやると、様々な四季折々の自然の動きやそれらと一体となった歴史的建造物を見とることが出来ます。

夏の九条池周辺ではサルスベリ（百日紅）が花の少ない時期に鮮やかな彩りを添えています。原産地は中国ですが、花期が長く七月中旬から九月中旬まで楽しめます。御苑内には数多く植えられています。厳島神社は九条家の鎮守社で、九条池の島の島に祀られているの池の弁天さんの名で知られています。中の島の先端は人の立ち入りが禁止されており、アイガモ（ハ鴨・間鴨）と白いアヒルのペアの格好の休憩場所になっています。このペアは年中九条池に居ついていますが本当に仲がよ

九条池のカメ

似田貝諭

九条池のカメの多くは、頭（側面）に赤い模様が特徴です。アカミミガメ（恐らくミシシッピアカミミガメ）です。実はアカミミガメ、環境省では「要注外来生物」とされています。「外来生物」というと、ブラックバス（オオクチバス）やコクチバス（オオクチバス）やカミツキガメが思い浮かぶと思います。彼らは「特定外来生物」として指定されており、飼育や保管などの行為が規制されています。一方、「要注意外来生物」というのは規制がありませんが、生態系に悪影響を及ぼす可能性がある事から、適切に取り扱われるよう理解と協力をお願いしているところとです。

アカミミガメはペットとして大量に輸入され、飲み込むのに手こずったときも一緒に泳いでいるのが見ると少し心配です。さらにもう少し観察するとできるだけの場所所取りをしようとする傾向があります。調べてみるとカメの甲羅下には殺菌とビタミン合成のために必要とされています。のんびりとした情景ですが、カメは生きるために必



九条池のカメ達

京都御苑はサルスベリを例年九月頃まで楽しむことができます。中でも九条池の高倉橋から眺めるサルスベリは屈指の風景ではないでしょうか。この時期は特に多くの利用者が九条池を訪れて下さるような気がします。

サルスベリからふと視線を水辺に落とすと、何種類かのカメが池の

く、水面上を移動するときもいつも一緒に泳いでいます。また、この先端の岩の上で時々大型のアオサギが形像のように身じろぎもせず立っています。このペアは年中九条池に居ついていますが本当に仲がよ

飲み込むのに手こずったときも一緒に泳いでいるのが見ると少し心配です。さらにもう少し観察するとできるだけの場所所取りをしようとする傾向があります。調べてみるとカメの甲羅下には殺菌とビタミン合成のために必要とされています。のんびりとした情景ですが、カメは生きるために必

死のようです。九条池のカメの多くは、頭（側面）に赤い模様が特徴です。アカミミガメ（恐らくミシシッピアカミミガメ）です。実はアカミミガメ、環境省では「要注外来生物」とされています。「外来生物」というと、ブラックバス（オオクチバス）やコクチバス（オオクチバス）やカミツキガメが思い浮かぶと思います。彼らは「特定外来生物」として指定されており、飼育や保管などの行為が規制されています。一方、「要注意外来生物」というのは規制がありませんが、生態系に悪影響を及ぼす可能性がある事から、適切に取り扱われるよう理解と協力をお願いしているところとです。

アカミミガメはペットとして大量に輸入され、飲み込むのに手こずったときも一緒に泳いでいるのが見ると少し心配です。さらにもう少し観察するとできるだけの場所所取りをしようとする傾向があります。調べてみるとカメの甲羅下には殺菌とビタミン合成のために必要とされています。のんびりとした情景ですが、カメは生きるために必

の眺めのなかでもっとも存在感があります。明治十五年に建設されましたが当初は、この橋を渡り丸太町に出る直線の行幸道が計画されていました。その後この計画は立ち消えになって、池を中央で分断する大きな橋だけがつけられてしまいました。今眺めると異様な感じがしてしまいます。リユームで、和風庭園に架かる橋としてはどうもしっくりきません。現在の橋は昭和三十年代初め、RC造に改修されたものです。

拾翠亭、九条池、そして厳島神社の西隣ではこのほど、公家屋敷としての面影を遺す閑院宮邸跡（建物と庭園）の保存活用工事が完了しました。平成十五年度から三年をかけての全面的な改修と周辺整備が行われ、本年、用に竣工しました。閑院宮邸跡はすでに一般公開されており、特に収納展示室では京都御苑に關する資料の展示を行い、その歴史や自然について利用者への情報提供を行っています。現在この一画は、平安京遷都以来の歴史を有する宗像神社とも相まって、京都御苑の歴史に触れることのできる格好の場所となっています。みなさんのお立ち寄りをお待ちしています。

（財団法人国民公園協会 京都御苑 庶務管理課）

死のようです。九条池のカメの多くは、頭（側面）に赤い模様が特徴です。アカミミガメ（恐らくミシシッピアカミミガメ）です。実はアカミミガメ、環境省では「要注外来生物」とされています。「外来生物」というと、ブラックバス（オオクチバス）やコクチバス（オオクチバス）やカミツキガメが思い浮かぶと思います。彼らは「特定外来生物」として指定されており、飼育や保管などの行為が規制されています。一方、「要注意外来生物」というのは規制がありませんが、生態系に悪影響を及ぼす可能性がある事から、適切に取り扱われるよう理解と協力をお願いしているところとです。

アカミミガメはペットとして大量に輸入され、飲み込むのに手こずったときも一緒に泳いでいるのが見ると少し心配です。さらにもう少し観察するとできるだけの場所所取りをしようとする傾向があります。調べてみるとカメの甲羅下には殺菌とビタミン合成のために必要とされています。のんびりとした情景ですが、カメは生きるために必

催 事 案 内

■平成18年京都御苑自然教室

一般市民を対象とした自然教室を本年度は、下記の通り予定しています。都市の中では貴重な緑をもつ御苑で秋の自然を観察しましょう。

秋の自然教室“秋の御苑にふれよう”

11月26日(日) 9:30~12:00

主 催 環境省京都御苑管理事務所
財団法人国民公園協会京都御苑
指 導 京都自然観察学習会の先生方に指導して頂きます。
内 容 秋の御苑にはどんな草花やキノコがあり、どんな虫や鳥たちが生活しているか観察します。

集合場所 京都御苑 石薬師御門前
(上京区京都御苑内北東角・今出川広場前)

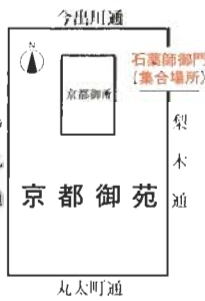
受付方法 当日、集合場所に9:30頃までにお集まり下さい。

参加費 無料
その他 筆記用具をご持参下さい。手持ちのルーペ、双眼鏡、図鑑などの観察用具があればご持参下さい。

問い合わせ 京都御苑管理事務所 TEL075(211)6348
財団法人国民公園協会京都御苑 TEL075(211)6364

*以降自然教室予定

冬の自然教室“冬の御苑にふれよう”
平成19年1月21日(日) 9:30~12:00
集合場所 中立売北休憩所前



トノサマバッタ

初夏から秋にかけて、京都御苑の原っぱには、近づくとすばやく飛ぶトノサマバッタが多く見られます。日本全国に分布していて、成虫の雄は体長約五十ミリ、雌は約四十ミリ、雄は約二十倍、雌は約十倍以上の大きさがあります。頭部には大きな複眼と、目の中央に小さな目の単眼があります。左右に開いた大あごで草を切り取り、モリモリ食べます。長い後脚で力強く地面を蹴ってジャンプした後、前翅と後翅を逆に動かして体長の約二百倍の二十倍以上飛びます。成虫で緑色や褐色の個体が出るのは、幼虫

の時の温度や乾燥状態できまります。夏に近い季節に育った幼虫は、高温と乾燥のために茶褐色になりやすくなります。雄も雌も「ジリジリッ」と鳴きまわります。後脚にあるギザギザを前翅にこすりつけて音をだして仲間を呼びます。耳は後翅の付け根の下部の腹部の第一節に、雄は雌の背中に乗り交尾をします。雌は原っぱ等の地面に穴を掘って、泡と、緒に卵を産みます。泡が卵のうしろに薄い皮になり、その中に約六十個の卵が入っていて保護されます。卵は冬を越し、春になると卵からふ化し約七ミリの幼虫一令幼虫が出てきます。五回目の脱皮で羽化して成虫になります。羽化は背中が割れてきて頭が出

トノサマバッタ

谷 幸樹



(京都自然観察学習会)

会 員 募 集

財団法人国民公園協会 京都御苑

年会費

- 普通会員 1,000円以上
- 賛助会員(会社・団体) 10,000円以上

会員への特典

1. 葵祭、時代祭の招待券を進呈します。(ただし、普通会員は会費4,000円以上の方に限ります。)
2. 本会発行物をそのつど送付します。

■申し込み、問い合わせ先

国民公園協会 京都御苑

住所 京都市上京区京都御苑内
〒602-0881 TEL075(211)6364

御 苑 の 花 暦

和 名	開 花 期	主に見られる場所
ミヤギノハギ	7月~9月	清和院御門外、出水の小川付近
ヒガンバナ	9月~10月	御苑内の各草地
サザンカ	11月~2月	児童公園付近

京都御所・秋の一般公開

期間 11月1日(水)~11月5日(日) 9:00~15:00

入口:直秋門(ぎしゅうもん) 出口:清所門(せいしよもん)

問い合わせ先:宮内庁京都事務所 TEL075(211)1211



祐 井

苑内の史跡(水事情) 祐 井

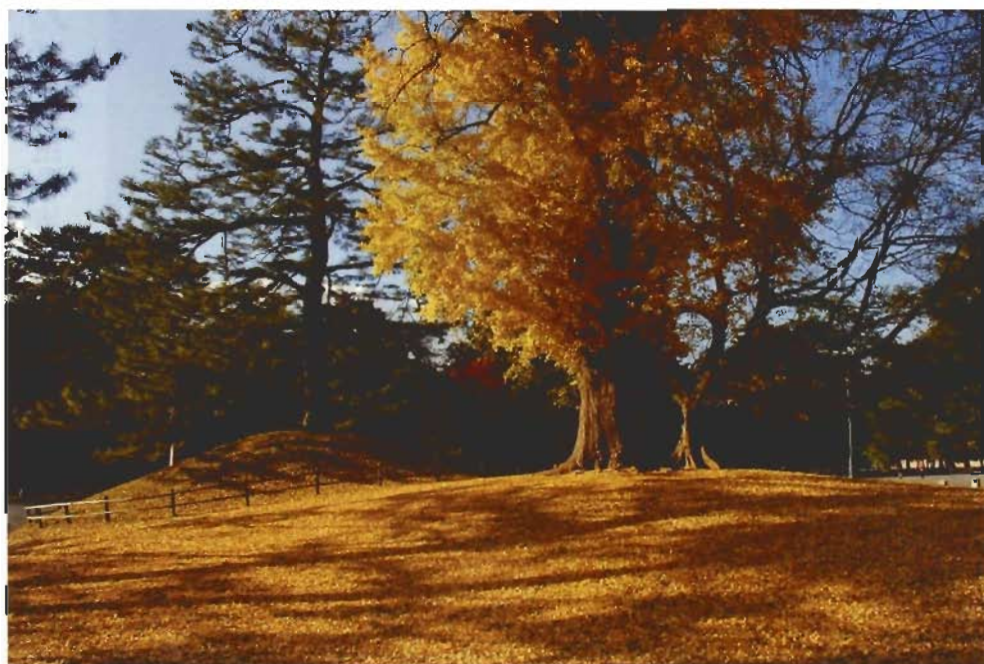
(さちのい)

伊東 宗裕

京都御苑の東北隅に、公家中山家の邸宅跡があり、その中に井戸があります。これが泉井、染殿井とともに京都御苑三名水といわれる祐井です。嘉永五年(一八五二)、当主中山忠能の娘慶子が明治天皇を生み出した。この地は明治天皇誕生

成長の地なのです。明治天皇の幼名を祐宮としました。井戸の名が祐井ですから、当然両者は結びつけて考えられました。人の名を井戸につけるのは、その井戸から産湯の奉を汲んだため、といわれることが多いので、この祐井も明治天皇産湯の井戸といわれることがあります。京都市内には源義経や菅原道真の産湯の井と伝える井戸が残っています。ところが、井戸のそばに明治十年に建てられた石碑があり、その碑文によれば、ちよつと事情が違ふようです。碑文の最初に左のように「この井戸は御所の東北の中山家の跡にある。中山家は今上天皇(明治天皇)誕生の地である。嘉永六年(一八五三)の夏、京都は日照りに苦しむ、中山家の井戸はすべて涸れってしまった。この時明治天皇(一八五二)誕生(一八五二)とあり、養育に支障があるといけないうので、新しい井戸を掘ったところ清らかな水がわいて中山家の者はみな生きかえり思いをなした。先帝(孝明天皇)はこのことを

聞きとて喜ばれ、新しい井戸を「祐井」と命名された。産湯の井ではなく、強いていえば明治天皇ゆかりの井戸ですね。でもガイドブックにそう書かれていることがありますが。産湯の井戸と考えるのが、日本の伝統からすれば当然なのです。ちなみに「明治天皇紀」という書物によれば、明治天皇の産湯の水は賀茂川の水に井戸水を加えたものだったそうです。(京都市歴史資料館 担当課長)



御 苑 の 風 景 ◆ 「凝華洞跡のオオイチョウ」